



See you  
Someday

Daniel C. Horvath

私は3年前に国際化を推進するために、英語指導助手として日本にきました。

光町での生活は本当に楽しかったのですが、次に進むときが来ました。

たくさんの友達とたくさんの思い出を作ることが出来ました。光町を去るにあたって一番つらい事は素晴らしい友達と別れることではなく、また私が3年間生活した場所から離れる事でもないのです。友達はいつまでも友達で、この町はいつまでもここにあるからです。私は日本から離れるわけではないので、友達と話したいと思ったり、会いたいと思えばそれは可能なこと。光町を見たいと思っただけでも見ることが出来ます。でも、2度と光町に戻ることができず、友人に会うことがなくても、ありがとうとさよならを言える機会が十分あったので、私は安心してこの町から去ることが出来ます。

1番つらいのは1・2回しか会わなかった人に、ちゃんと挨拶を言えなかったことです。この3年間を振り返ってみると本当に短く感じます。あっという間に過ぎたような気がします。全ての時間と出会いが私にとって大切な思い出になりました。親切に私に手を振ったり挨拶

光中でALET(英語指導助手)として3年間ご活躍頂いたダニエル・ホーバス先生が7月25日で退任しました。中学生にとっては、世界を身近に感じる事ができました。お世話になったみなさんにお別れのあいさつを紹介します。



全ての時間が大切な思い出

ありがとうさようなら

をしてくれた人達から、食堂で飲み物をごちそうしてくれた方々、道で走って駅にむかっている時に車に乗せてくれた方、ふるさと祭りでおみこしの手伝いに招待して下さいました谷中の方々、今では毎日の習慣になっている近所の人たちとの「いつてらっしゃい」、「おはようございます」、「こんにちは」、「こんばんは」そして「お帰りなさい」という挨拶。このような小さな事が当たり前ようになってきたんですが、もうなくなると思うと、とてもさびしく思います。

私は8月から東京で暮らして、仕事をするようになりました。東京に行っても光町と同じように友達と思いをたくさん作ると思いますが、前に述べた小さな出来事はそんなにはないでしょう。小さな町でしか経験することができないことだと思うからです。

町中の人々が読む広報紙の中で、私はこのようにお世話してくださった方に感謝の気持ちを伝えたいと思います。あなた達が私の毎日を明るくしてくれました。それは光と呼ばれている町の人たちの特徴だと思います。

いつまでも伝えたい

〜七夕の馬づくり〜

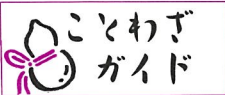
南条小学校で6月28日、南条地区の  
お年寄りの指導を受けながら、七夕の  
馬づくりをしました。馬の材料は「ま  
こも」で、なかなか作れなかった子供  
たちも、おじいさんたちの見事な手さ  
ばきによる指導を受けて、できあがっ  
た大小の牛・馬に大満足。さっそくお  
みやげに持ち帰りました。

また、日吉保育園でも先生方が、園  
児に教えようと馬づくりをしました。  
世の中の移り変わりとともにしだい  
に姿を消してしまう行事を、いつまで  
も伝えていきたいものです。

◀おじいさんの鮮やかな  
手さばき



▲いよいよ完成  
(日吉保育園)



ひと つぶ むぎ  
一粒の麦

○多くの人々の幸福のために、自ら進んで犠牲になる人のたとえ  
地に落ちた一粒の麦が多くの実を結び、永遠の命を得るという「新約聖書」の言葉から。